

だった。今後、カザフスタンでも健康維持の観点から、減塩が意識されることになるだろう。

近年カザフスタンでは、特に都市部での肥満者の急増が国家的な問題になっている。しかし、遊牧世界では太っていることが豊かさの象徴だったことから、国民の間で肥満に対する危機意識は高くはない。西洋式の食品も豊富に出回るカザフスタンでも、乳肉に対し伝統的に高い嗜好性を持ち続けていることを確認した。今後、カザフスタンの乳肉の消費形態が、どのように推移して行くか、肥満者への対応と共に検討を続けていきたい。

## 謝辞

本研究は、2014年「乳の社会文化ネットワーク」、平成26年度科学研究費補助金基盤B（研究代表名古屋学院大学教授 今村 薫氏）を受けて行った調査の一部であることを記して、お礼を申し上げます。そして本研究にご協力をいただきましたカザフスタンの皆様へ感謝致します。本研究の遂行にご助言ご協力を賜りました、カザフスタン国立アルハラビ大学 Nurtazin 教授に感謝致します。最後に本投稿に貴重な助言をいただきました査読の先生方に感謝致します。

## 引用文献

石井 智美

1999「サハ（ヤクート）共和国の kumiss に関する調査」『ミルクサイエンス』48(3)：193-198.

2010a「キルギス遊牧民の食」石毛 直道編著『世界の発酵乳 キルギス遊牧民の食』はる書房 東京 66-83 頁.

2010b「モンゴル遊牧民の食の変容」『日本沙漠学会誌』19(4)：537-543.

Ishii, S., Nurtazin, S.

2014 Properties of camel milk liquor (shubat) in the Republic of Kazakhstan, *Milk Science* 63 (2): 55-62.

Ishii, S., Hoshino, B., Komiya, H., Uehara, A., and Nurtazin, S.

2014 Study on production and properties of kumiss of herders in Mongolian dry steppe, *Journal of Arid Land Studies* (24)1:195-197.

岩垣 穂大, 斎藤 篤, Amantay, Z., 下田 妙子, 扇原 淳

2014「カザフスタン共和国のナウルズに見る食の文化的・歴史的特徴」『日本食生活学会誌』24(4)：255-256.

King, J.

1996 Kazakhstan. In King, J., Noble J., and Humphreys, A (eds.), *Central Asia*, Lonely planet publications, Hong Kong, pp173-250.

厚生労働省

2014「各エネルギー必要量」菱田明・佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準（2015年版）策定検討会報告書』第一出版 東京 59-87 頁.

水谷 令子

2005「第二章 食の文化」水谷令子 清水陽子編著『女たちが究めたシルクロード』東洋書店 東京 63-65 頁.

文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会報告

2016『日本食品標準成分表 2015』女子栄養大学出版部 東京.

中尾 佐助

1972『料理の起源』日本放送出版協会 東京.

日本食品工業学会（編）

1992『食品成分分析法』光琳 東京.

下田 妙子

1998「食と大地とシルクロード」『食生活』92(10)：96-99.